

指導資料



鹿児島県総合教育センター

社会 第110号

- 小学校，特別支援学校対象 -

平成20年10月発行

問題解決的な学習を推進する社会科学習指導 - 導入段階での効果的な資料活用の工夫 -

単元全体の指導を通して問題解決的な学習を推進する小学校社会科学習では，子どもたちにいかに問題意識を喚起させ，持続させるかが学習指導上の大きなポイントとなる。

平成20年3月に告示された小学校学習指導要領（社会編）には，「具体的・基礎的な資料を効果的に活用し，社会的事象の特色や関連，意味について考える力，調べたことや考えたことを表現する力を育てる問題解決的な学習の推進」について明記してある。

また，特定の課題に関する調査（社会）では，「多様な資料の中から問題を発見・把握する力や，課題の解決策を表現したり，その理由を説明したりすることが不十分である」との指摘があり，「資料を読み取り，関係付ける活動を通して，子どもの問題意識を醸成させる指導の工夫や調べた事実をもとに考え，表現する学習機会の充実」を指導法改善の具体策として挙げている。

そこで本稿では，問題意識を喚起させ，意欲的に学習に取り組む問題解決的な社会科学習を推進するためには，導入段階での資料活用の工夫が大切であると考え，その効果的な活用の方法について述べる。

1 導入段階での資料活用のポイントと実際

導入段階での効果的な資料活用のポイントとして次の3点を取り上げたい。

「不思議だな」「すごいな」「どうしてかな」など問題意識を高めさせる資料を活用する。

対照的に比較できる資料を活用する。

変化や変遷の理由を考えさせる資料を活用する。

(1) 「不思議だな」「すごいな」「どうしてかな」など問題意識を高めさせる資料を活用する事例

「東大寺の大仏右手の絵」の活用



図1 「東大寺の大仏右手の絵」

ア 活用のねらい

第6学年「聖武天皇と奈良の大仏」の単元において，天皇を中心にした政

治を確立するために、国家的な大事業として東大寺の大仏が作られたことを理解させる。その導入段階の資料として、大仏の大きさを実感させるため、実物大の右手の絵を活用した(図1)。

イ 問題意識の喚起の過程

資料を提示することで、右手の大きさから大仏の巨大さを実感させることができた。

そして、「だれが、いつ、こんな大仏を造ったのだろう」「どれくらいの時間や費用、人数が必要だったのだろう」「何のために、こんな巨大な大仏を造ったのだろう」などの問題意識が喚起された。そこから、「大仏は、誰が、何のためにどのようにして造ったのだろう」という单元全体の学習問題を設定し、学習問題に対する子どもたちの予想を集約し、追究の柱を立てて調べ学習へつなげていった。

(2) 対照的に比較できる資料を活用する事例

「日本の漁獲量と魚類消費量の推移を示すグラフ」の活用

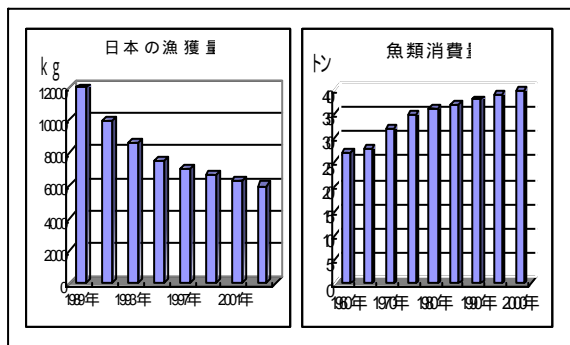


図2 「日本の漁獲量と魚類消費量の推移を示すグラフ」

ア 活用のねらい

第5学年「水産業のさかんな地域をた

ずねて」の单元において、水産業が国民の食生活を支えていることや、外国から輸入している水産物があることなどを理解させる導入段階の資料として、日本の漁獲量と魚類消費量の推移を示すグラフを活用した(図2)。

イ 問題意識の喚起の過程

日本の漁獲量のグラフからは、年々漁獲量が減っていることが分かるが、魚類消費量のグラフからは、年々消費量は増加していることが分かる。この二つのグラフを比較することで、「どうして漁獲量が減っているのに、消費量は増えているのだろう。」という問題意識が喚起された。それを学習問題として設定し、子どもたちの予想を集約し、追究の柱を立てて調べ学習へつなげていった。

(3) 変化や変遷の理由を考えさせる資料を活用する事例

「公共工事が行われる前と途中の写真」の活用



図3 「公共工事が行われる前と途中の写真」

ア 活用のねらい

第6学年「わたしたちの願いを実現する政治」の单元で、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解させる。その導入段階の資料として、公共工事が行われる前と工事途中の写真を活用した(図3)。

イ 問題意識の喚起の過程

工事前の写真を提示して、「バスや車の運転手さんは、どんな気持ちで運転しているのだろう」「道路を歩く人は、どんな願いがあるのだろう」という発問をとおして、「道路を広げて欲しい」「歩道を造って欲しい」といった問題意識が喚起される。

そこで、工事途中の写真を提示して、自分たちの予想や道路を利用する人々の願いどおりに工事が始まったことに着目させ、「道路工事は、誰のどのような働きによって実現したのだろうか」という学習問題を設定し、子どもたちの予想を集約し、追究の柱を立てて調べ学習へつなげていった。

このように、導入段階で効果的な資料の活用を図ることで、子どもたちの問題意識が喚起され、それが単元全体の学習問題の設定につながっていくことが理解できる。

効果的な資料作成の視点としては、次のような点が大切になる。

単元指導をとおして、どのような力を培うかを明確にし、単元全体の中心概念につながるような資料

単元の指導内容から、基礎的・基本的事項を洗い出し、その中の重要事項に対応した資料

教科用図書の資料を参考に、中心的な社会的事象に対応した資料

2 導入段階での効果的な資料活用の工夫による問題解決的な学習の実践例

第3学年及び第4学年の単元「スーパーマーケットではたらく人」の指導事例を基

に説明する。

(1) 身近な調査結果を資料に活用

導入段階で、単元全体を貫く問題意識をもたせるためには、子どもたちの実生活に基づいた事象を教材化することも重要となる。そこで、各家庭において週末どんな店で買い物をしたのかを調査し、その結果をグラフに表し、導入段階の資料として活用した(図4)。

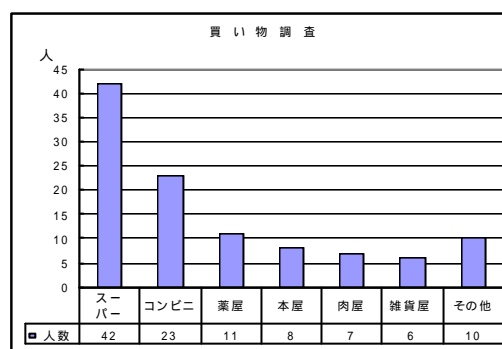


図4 「買い物調査結果のグラフ」

(2) 問題意識の喚起の過程

資料を提示し、資料から分かることや気づいたことを発表させると、ほとんどが、「スーパーマーケットにたくさんの人が買い物に行く」ことに着目し、「なぜ、スーパーマーケットにたくさんの人が買い物に行くのだろう」という問題意識が喚起される。そこで、「スーパーマーケットの人気の秘密は何だろう」という学習問題を設定し、子どもたちの予想を集約した。それを基に追究の柱を立て、調べ学習を行った。図5に示すように、導入段階の効果的な資料活用が単元全体の指導過程につながっている様子が理解できる。

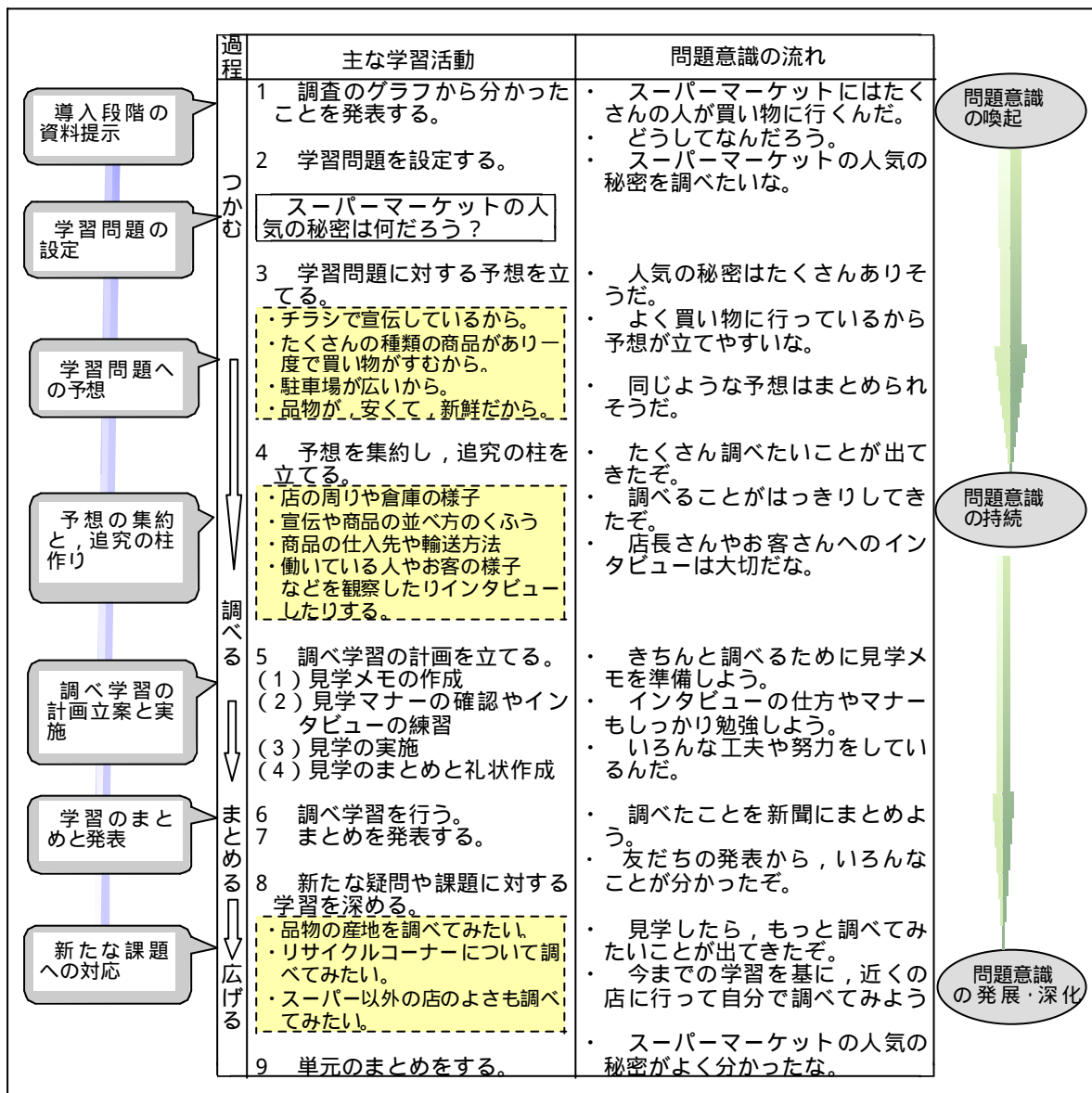


図5 単元「スーパーマーケットではたらく人」の指導過程

3 まとめ

社会科学習では、単元全体を貫く問題意識を喚起させ、意欲的に学習に取り組む問題解決的な学習を推進することが肝要である。そのためには、導入段階での効果的な資料活用を工夫することが、見通しを持った指導計画にもつながることを述べてきた。

導入段階での効果的な資料活用を図ることにより次に示すような効果が期待できる。

問題意識が喚起され、単元全体を通して持続し、発展・深化する。学習問題が明確になり、追究の柱や学習計画が立てやすくなる。調べて分かったことを表現したり問題解決的な学習を通して中心概念を理解したりする「まとめる」過程も充実する。

【引用・参考文献】

- ・ 小学校学習指導要領解説（社会編）平成20年8月
- ・ 特定の課題に関する調査（社会）平成19年2月国立教育政策研究所（企画課）